

新年度になって早一ヶ月になりました。4月2日付で玉城信光副会長が沖縄県医療政策参与到就任致しました。県内における新しい医療体制をどのように構築するか、期待したいと思います。看護師、助産師不足が多く、多くの会員から聞かれますので、県立浦添看護学校の存続と助産師養成課程の設置をぜひお願い致します。来年度から始まる特定健診・特定保健指導の問題も重要だと思われまますので、ご指導をお願い致します。

さて、表紙の写真は中山良有先生の「北国のゴールデンウィーク」です。北国にやっと訪れた春の息吹が伝わってくるようです。

今月号は先ず、日本医師会定例代議員会報告からです。唐澤祥人日医会長は所信表明で「医療提供体制と国民皆保険制度を堅持し、国民の安心を守り、最善の医療を提供したい」と述べられています。代表質問では「看護師不足」「療養病床の再編」「異常死の届け出」「助産師不足、看護師の内診問題」などホットな問題が話し合われています。医師会活動が活発になるには我々会員が支えていく必要がありますので、ご協力をお願い致します。

沖縄県医師会定例代議員会では平成19年度事業計画及び予算案が承認されました。代表及び個人質問は「新しい県医師会館の建設について」では会館のコンセプトと規模の説明があり、「助産師養成課程の設置について」では県立浦添看護学校の存続と助産師養成課程の設置を求めることが話し合われました。

「医師確保に関する喫緊の対応」の報告は大山常任理事の要望で全文を記載しております。最近のメディアファックスによりますと、医師不足の解決手段としてアンケート調査で医師側は診療報酬を上げるが最多だったのに対し、一般市民は強制的に医師を配置するが最多だったそうです。中間報告のように医療供給体制を患者という需要者側の視点から確保するとなると、今の自由経済社会では医師のなり手は減少し、質の確保が困難になる可能性があるように思わ

れます。今後、医師を増やす対応に期待したいと思います。

第14回県民公開講座のテーマは「慢性腎臓病」で、今回も700人を越える聴衆で好評のようでした。県内の透析患者が全国上位で、特に若い透析患者が全国一ということに驚くと同時に、その原因疾患の半数が糖尿病で、肥満県沖縄が長寿県に復活するには容易ではないことがよくわかりました。長寿県復活のために始められた県民公開講座ですが、まだまだ続けなければならないようです。

月間行事コーナーでは「肝臓週間」の佐久川廣先生、「世界禁煙デー」の宮城伸健先生、ありがとうございました。肝臓対策としての肝炎ウイルス保有者対策、小児の禁煙対策としてのタバコが手に入りにくい環境づくりと勉強になりました。

生涯教育コーナーは村重明宏先生の「動脈硬化の診断」で、形態評価から質的評価への変化を教えてくださいました。

プライマリ・ケアコーナーは伊是名博之先生の「緊急避妊法について」で、救急医にはぜひ知っていて欲しい知識です。

インタビューコーナーでは来月から琉球大学学長に就任予定の岩政輝男先生、初の医学部出身学長です。離島医療の問題も含めて県内の医師養成に大いに期待したいと思います。

地区医師会コーナーは川野幸志先生で、那覇市立病院での電子カルテ導入を取り上げていただきました。私自身は電子カルテの導入には専属の秘書が必要ではないかと考えてまだ導入しておりませんので、参考にしたいと思います。

若手コーナーは田名毅先生で、「働く人健康支援室」の立ち上げ、更に「町の保健室」と今後の新しい医療のあり方に感心いたしました。ご発展を祈っております。

リレー随筆の平良章先生、随筆の常連の長嶺信夫先生、ありがとうございました。

広報副担当理事 野原 薫